

自閉症や発達障害の人たちと社会がどう向き合うかを模索する市民団体「自閉症の未来協議会」が1日、金沢市で発足した。この問題で患者と一般市民が参加した支援団体は全国でも珍しく、学校や企業が、こうした人たちにどう対応していくかを考える新しい取り組み。7月にも山野之義市長に政策を提言する。(大森雅弥)

金沢で市民団体発足

自閉症に優しい社会を

自閉症や発達障害の企業でどう対応しているか、高度な知識がくかが課題となっていて、ありながら、病状を自覚することなく他人とコミュニケーションが二〇一〇年に市内で開かれた自閉症をめぐるケースもあり、学校や市民参加のシンポジウム。出席者の有志が勉強会を継続し協議会をつくることになった。主婦や企業経営者、教員のほか、自閉症の研究者らがメンバー。事務局は、この問題に取り組んでいる自閉症専門のインターネットサイトへの参加も目指す。

設立のきっかけは、二〇一〇年に市内で開かれた自閉症をめぐるケースもあり、学校や市民参加のシンポジウム。出席者の有志が勉強会を継続し協議会をつくることになった。主婦や企業経営者、教員のほか、自閉症の研究者らがメンバー。事務局は、この問題に取り組んでいる自閉症専門のインターネットサイトへの参加も目指す。

自閉症

対人関係がうまく持たないことや、言語発達の遅れがあり、活動や興味の範囲が極端にせま

く、特定の行動にこだわることなどの特徴で、診断される障害。脳機能障害が原因との説が有力だが、メカニズムは不明とされている。知的障害のない人も多く、進学や就職ができても対人関係で問題を抱えるケースが目立ち、対応が社会的な課題になりつつある。金沢大を中心に検討している。

患者も参加、政策提言へ



今後の活動について話し合う「自閉症の未来協議会」の会員たち。金沢市内で